

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

行動する環境アドバイザーの会報

グリーンニュース 第52号



タイトル「太田市のメガソーラー発電所」
太田市ホームページより引用

補足説明：一見すると前方後円墳（古墳）みたいですが、太田市緑町で今年7月から操業を開始したメガソーラー発電所です。敷地面積は42,000平方メートル、年間発電量は163万KWHと推定され、CIS（銅・インジウム・セレン）太陽電池10,560枚を備えています。

- P1 表紙
- P2 環境政策課より、ストップ温暖化
- P3 須永代表より
- P4 自然環境部会、ごみ部会だより
- P5 温暖化・エネルギー部会だより、広報委員会より
- P6 地域トピックス(前橋市)
- P7 トピックス
- P8 トピックス、部会及び委員会からのお知らせ

発行年月日 平成24年10月25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹

群馬県環境アドバイザーの動き (平成24年9月15日現在)

前年度(第8期)の県環境アドバイザーは327名の登録をして頂いておりました。第9期(登録期間:平成24年4月1日～平成27年3月31日)への更新登録者は203名でした、今期の新規登録者を含め平成24年9月12日現在243名です。 前期同様、各地で活躍されています。

※ サポセンブログ <http://saposen.kazelog.jp/> から
グリーンニュースがダウンロードできます。

サポセンブログを携帯、スマホで見よう



今年もやります。ストップ温暖化！県民アクション ～ただいま参加者募集中です～

環境政策課 松村 賢一

地球の温暖化が進むと、異常気象や感染症が増加したり、農作物に被害が発生したりするなど、私たちの生活に大きな影響が出るとされています。安易な判断はできませんが「以前と比べて、なんだか地球が変わってきているのかな。」と思えるこの頃です。地球温暖化防止には、産業分野だけでなく一人一人の「実際の行動」が大切です。

ということで群馬県では今年度も「ストップ温暖化！県民アクション」リーフレットを8月上旬から配布し始めました。今年度で4年目になります。大人向けの一般用と小中学校の児童生徒向けのこども版の2種類を作成し、取組を進めてもらっています。

現在寄せられている感想の中に「意識してやることは大変だが、徐々に習慣になった。」といったものも多く見られます。温暖化防止行動が習慣になっていく人が多くなってとても喜ばしいことです。県民アクションでは、温暖化防止行動を意識して、知り、行動していただくことを目的としています。ほんの少しでも温暖化防止行動を、県民の皆様に意識づけできたら、地球温暖化がくい止められるかもしれません。



たくさんの県民の方が取り組んでいただけるよう、アドバイザーの皆さんにはリーフレットへの取組はもちろんのこと、配布などの普及啓発に活躍いただきたいです。アドバイザーの皆さんが、近所の人や友人に「地球温暖化防止の必要性」を伝えながら「リーフレットを手渡し」していただければきっと思いは伝わります。

リーフレットは県庁や環境(森林)事務所で手に入れることができます。リーフレットに印刷されているハガキを切り取り、そのままポストに投函できます。切手不要です。

今年度は、報告者の中から抽選でクオカード1万円分が当たります。更にダブルチャンスとして、節電・省エネ日記を書いていた方の中からも、抽選で図書カードが当たります。力合わせる200万県民で地球温暖化を防止しましょう。

〈県民アクションホームページ〉 <http://www.pref.gunma.jp/04/e0110079.html>

「群馬県 県民アクション」のキーワード検索でも調べられます。

群馬県環境アドバイザーの皆様へ

猛暑の夏もようやく過ぎしやすい季節になって参りました。

環境アドバイザー及びサポーターとして日々ご活躍の皆様、まことに有難うございます。

群馬県環境アドバイザー連絡協議会も新しい体制となった以降、役員や環境政策課の方々と数度の打合せを行い、先日無事に今期2度目（新体制後初）の幹事会を行い、次のような事案について了承を頂きましたのでご報告致します。



① 組織体制について

- ・従来、広報部会とあったものを広報委員会として役員会・幹事会の間に置く。

アドバイザーの活動については横断的に取材を行い、且つ内外への広報機関という活動を行う部門であり、分科会としての部会というよりも委員会として更に柔軟な活動に繋げていきたいと考えてのことです。

- ・環境サポーターズ・クラブの設置

学校の環境教育を担当される環境サポーターは、環境アドバイザーに登録されている方の中から、更に県との契約という形をとって環境サポーターに登録されていますが、年に1度の県の研修会以外でサポーター同士の交流・研鑽ができる場がありません。サポーターズ・クラブでは、互いの情報交換や授業の行い方などを相互に学ぶことや、環境サポーターの運用方法のルール化などを話し合う場としたいと考えております。

② 群馬県環境フェスティバル参加について

- ・11月3日（土）に高崎駅前のヤマダ電機において、第14回ぐんま環境フェスティバルが開催されます。

例年のとおり私達も出展することとなりました。内容は環境政策課と共に「地球温暖化防止県民アクション」のパンフレット配布や環境アドバイザー募集、部会活動の簡単な紹介です。

皆様の御来訪をお待ちするとともに、当日のスタッフとして手伝って頂ける方がいらっしゃいましたら須永までご連絡下さい（連絡先はアドバイザー名簿をご参照ください）。



他に各部会報告や地区ごとでのミーティングを行いました。今後とも環境アドバイザーとしてのますますのご活躍と、執行部門へのご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

（群馬県環境アドバイザー代表 須永 徹）

専門部会たより

市民運動を支える「アマチュアの知識人」の行動について

大江健三郎氏は友人や知識人と共に脱原発を目指す運動の発起人や世話人として取り組んでおられ参加されております、現状をどのように見られているのでしょうか。

参加されている大半の方々は現実の仕事の場でしっかり仕事をした人達がリタイアし「アマチュア」として原発問題について発言されている大江さんより少々若い65～75歳くらいの人達で、ご自身も一人の「アマチュア」として加わっておられるとの事です。

友人のエドワード W サイド氏は、「アマチュアの知識人」とは何かで、「現代の知識人はアマチュアたるべきである、アマチュアと言うのは社会の中で思考憂慮する人間のことである」と書いておられるそうです。

専門を離れたアマチュアの知識人が今後の社会で有力な発言者、働き手になると彼は言っているそうです。日本の社会にこういう人は少ないと思っていたけれど、彼らが一番頼りになる存在となっているそうです。そして、若い人のチューター(補佐役)の役割をしているのも、その人たちだと話されているようです。

最初のおおきな集会で「私らには本質的に大切なモラル」がある、それは次世代が生きられる世界を残す、生きてゆく自由を妨げない、それが「人間のなにより本質的なモラル」で原発はそれをぶっ壊すとも述べられています。

参考 大江健三郎書「定義集」(朝日新聞出版社) 毎日新聞オピニオン 2012. 8. 27 版

(自然環境部会長 宮崎 亮二)

ごみの問題意識

平成22年度、群馬県のごみ総排出量は約790万tで、一人一日当たりになると1078gになりました。我が群馬県は一人当たりのごみ排出量が全国のワースト3にみごと輝きました(泣)。そしてこのごみを処理するために費やされる税金は、1人当たり年間1万円を超えています。群馬県民は一人当たりのごみを出す量が多く、そのために多額の税金を使っていると言うことで、あまり名誉なことではありません。何とか名誉を挽回したいと考えるのは、群馬県民として自然なことではないでしょうか。

どうしたらごみは減らせるのでしょうか。一人ひとりがごみを減らす努力をすれば減るのではないか。それはそのとおりですが、こんなに単純なことがとても難しいことなのです。行政の問題であるばかりでなく、地域社会の問題であり文化の問題でもあるのです。リデュース、リユース、リサイクルの3Rを推進し、何よりもリデュース=ごみの発生を抑えることが基本的な課題です。そのためには、まず私たち自らのライフスタイルを見直すことが必要になってきます。そしてごみ問題に敏感で、相互に助け合える地域社会も必要です。少し飛躍もありますが、こう考えるとなかなか簡単なことではなさそうです。ごみ部会を共に考える場としたいと思います。

(ごみ部会長 山田一朗)

専門部会たより

「まずよく知ろう」

震災と、連動した原発事故以来毎日のように「エネルギーと電力」に関する何らかのニュースが流れています。

これからはどんなビジネスも、家庭生活も「エネルギーと電力」は切り離せない問題でしょうね。電力とエネルギーに関しては一般的には身近な割に「本当のところはどうなんだ？」ということが伝わっていません。

政府は「新エネルギー戦略」で2030年代の原発依存ゼロを発表しましたが、それも揺らいでいます。エネルギー政策には何やら大きな力が影に見え隠れしたりしているような気がします。

ともあれ、我が部会では、改めてまずよく知ろう！ということで9月8日に部会を開催しました。テーマは「太陽光発電」です。そこではわかりやすいデータを元に様々な話し合いがおこなわれました。

実際に「太陽光発電」導入されている家庭の生データも提出され、盛り上がりました。

我が部会ではまずよく知ろう！ということから活動を定期的に開催しています。

次回開催のお知らせ 第4回 温暖化・エネルギー部会

場所 前橋市 元気プラザ 21 日時 11月17日(土) 10時～12時

テーマは「水力・風力発電」になる予定です。 ※講師を検討中

今後も部会を通じていろんなことを吸収し、その後の活動につなげていけるよう頑張っていきたいと思います。

(温暖化・エネルギー部会長 田口勇夫)

新しい紙面を求めて

協議会代表の記事にもありますように、広報部会は広報委員会として新たな活動をする事になります。

機関誌としての使命を保ちながらもより一層親しんで頂ける紙面にするよう努力して参ります。

記事の内容も従来のように一方的に執筆をお願いするだけでなく、現地に行って取材するなど立体的な紙面作りを考えます。

また従来からお願いしています一般投稿についても「600字程度」という決まりさえ守っていただければ従来にも増して幅広く取り上げて行こうと考えます。

新たな試みとしては「写真の公募」を考えています。

モノクロ印刷であること、また紙が上質紙でないなどから制約はありますが、「環境」に関連した写真であれば長い記事ではなく簡単な説明文を添えていただけるだけで、記事として載せる事も考えています。

今後とも「読んでいただけるグリーンニュース」を目指して進んでまいります。

(広報部会長 田中 和夫)

地域トピックス 前橋

南橋の自然観察と環境を守る会

2001（平成13）年5月に発足し、11年が経過しました。会の目的は「自然観察や学習会を通して地域の環境を守っていこう」です。

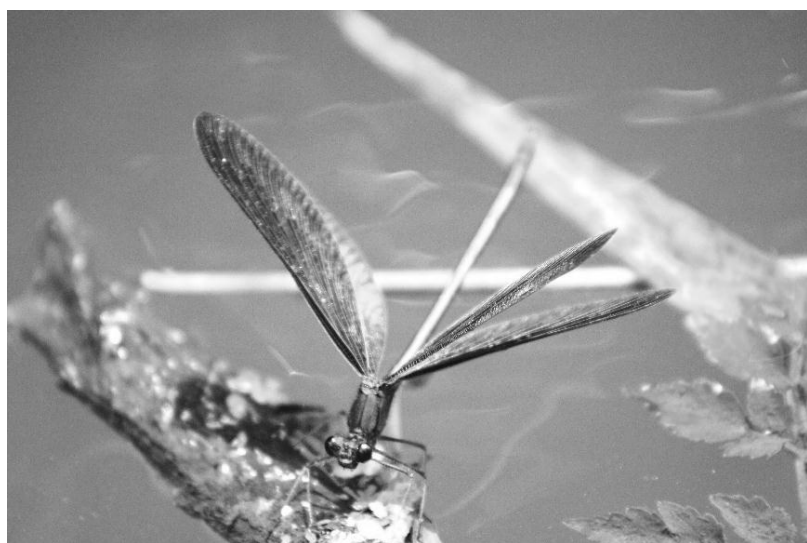


現在は会員の観察会などを年2～3回、清掃活動を含む一般対象の観察会を年3回実施しています。一般対象は、県と「地域環境学習事業委託契約」を結んで実施しております。また南橋公民館利用団体に加盟して、地域活動に協力しています。会員は発足当初から約30名で、前橋市以外に在住する会員もいます。会費は年1,000円です。会の活動として、2006年から「桃ノ木川のアオハタトンボ発生数調査」、2004年から「桃ノ木川冬鳥調査」を継続して行っております。これらの結果や観察会の記録など

は、年度末に発行する「活動報告」に記録し、会員に配布するだけでなく、県・市の関係部局や県立図書館などに寄贈しております。2010年には他団体からの助成金で地域の「里山の観察ガイド」を作成し、地元の小中学校や関係者等に配布し、好評を得ました。現在、地域を流れる桃ノ木川を中心にしての「観察ガイド」を作成中です。

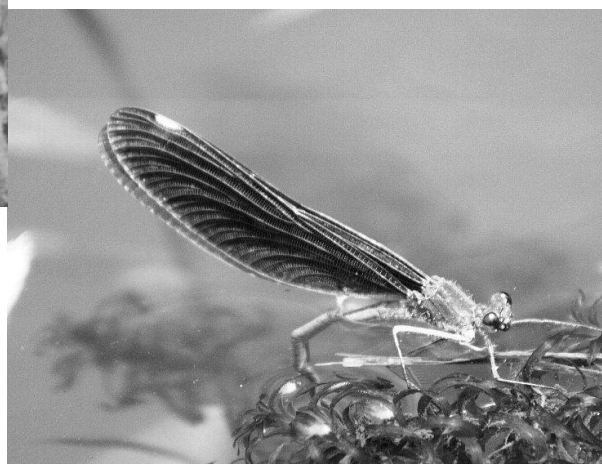
このようにして、地域の環境のすばらしさを観察し紹介しながら、会の目的である「地域の環境を守って」いきたいと会員は“手弁当”で活動を継続して参りました。

（会長 片山満秋）



アオハタトンボの雄

アオハタトンボの産卵



太陽光発電 ことはじめ（2）

普及率と日照時間

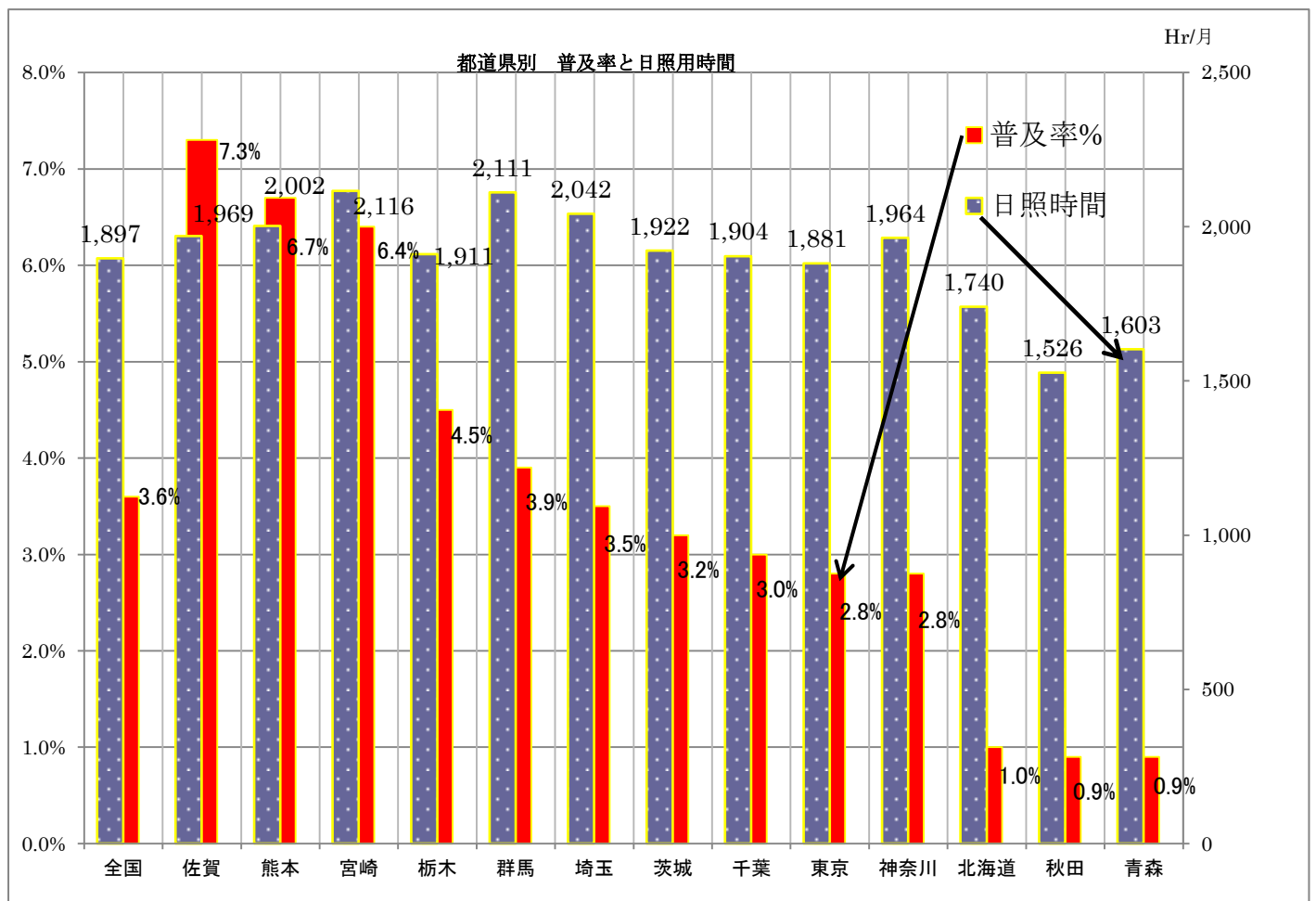
50号では、わが国の日照時間の多い10の地区を順に紹介、群馬が全国9位だった（気象庁の最新データによると、群馬は4位）。太陽光発電は日照時間の長い所が有利であると考えられるが、その普及率はどうなっているのかを検証してみた。

下表は都道府県別に、太陽光発電の普及率を、高い順に並べたものである。1位・佐賀は7.3%、以下熊本・宮崎・大分・長崎・福岡の九州各県が7位までに並ぶ。4位・岡山、6位・長野7位・広島、山梨、滋賀と続く。九州は普及率が特に高率だ。関東地方を見ると（B図）普及率トップが栃木だった。ダントツ4.5%、全国順位が16位。次いで群馬が3.9%は全国22位である。

一方、日照時間は群馬が関東では最高で、2,111時間は全国4位。C表に纏めた全国6位までは、普及率7位の山梨が日照時間全国1位で2,183時間。2位の高知（2,154時間）、3位の宮崎は（2,116時間）、5位静岡（2,099時間）、6位徳島（2,093時間）と続く。

これを普及率と重ね合わせると、意外にも日照時間の長いところが必ずしも、太陽光発電の普及が進んでいるとは限らない事が理解できる。B図は全国平均と、普及率全国ベスト3のほか、関東1都6県と、最低の3県を並べてみたが、日照時間全国25位の栃木が、普及率で関東トップ。日照時間全国4位の群馬は、栃木よりも普及率が低いのは、一体何故なのだろう？

（前橋市 松井 雄司）



トピックス

未利用エネルギーに一役？

この7月から「未利用エネルギー」の買取制度がスタートしました。太陽光や風力、またバイオマス発電等その地域に合った、また企業や自治体の様々な思惑の中から最良の方式が採用されるのでしょうか。



我が村、「榛東村」では、ソフトバンクのメガソーラーが運転を開始し、余り読めなかった

「しんとうむら」が一躍有名にも成りました。

自分の関わりを少し紹介しますと、8月の初めに岩手大学より「バイオマス発電」に使用する燃料チップの「脱水機」を前橋の工場に搬入して、8月22日には、発案者の沢辺先生や森林総合研究所の吉田教授の指導の元、関係者の見守る中試運転を行いました。

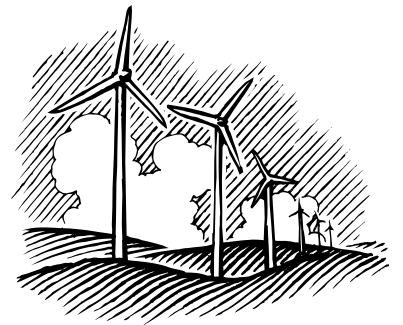
バイオマス発電に使用するチップは含水率の増減によりカロリーに大きな差が出ます。

通常、「乾燥」の手法を取り水分を「蒸発」させますが今回は「脱水」です。

昔の洗濯機に付いていた様な「脱水機」で直接水分を絞り出します。

未利用エネルギーを使用するのに、新たな「エネルギー」を大量に使用する事では意味が有りません。「脱水」が地球に優しい新たなエネルギーも作る手助けに成る事を信じ、このテーマを勧めたいと考えています。

山を整備し、川を浄化出来、そして海に居る魚たちの豊かに成る日はいつでしょう。



(榛東村 村上 慎一)

部会・委員会からのお知らせなど

	内容	場所	月/日	時間	(担当)問い合わせ
広報	GN53号第一回編集会議	県庁16F	11月 8日 (木)	13:30-15:30	(田中)090-5430-6174
広報	GN53号第二回編集会議	県庁16F	12月11日 (火)	13:30-15:30	(田中)090-5430-6174
自然	自然環境部会	前橋げんき21	10月27日 (土)	10:00-12:00	(宮崎)080-5019-3820
温暖化	温暖化・エネルギー部会	前橋げんき21	11月17日 (土)	10:00-12:00	(田口)080-5512-8160
ごみ	ごみ部会	県庁昭和庁舎 33会議室	11月24日 (土)	13:30~	(山田)090-4120-6508

次回(53号) 平成24年12月25日発行